

# ピエロ人形の詩

うた

文 藤山中みちこ  
山崎勝子



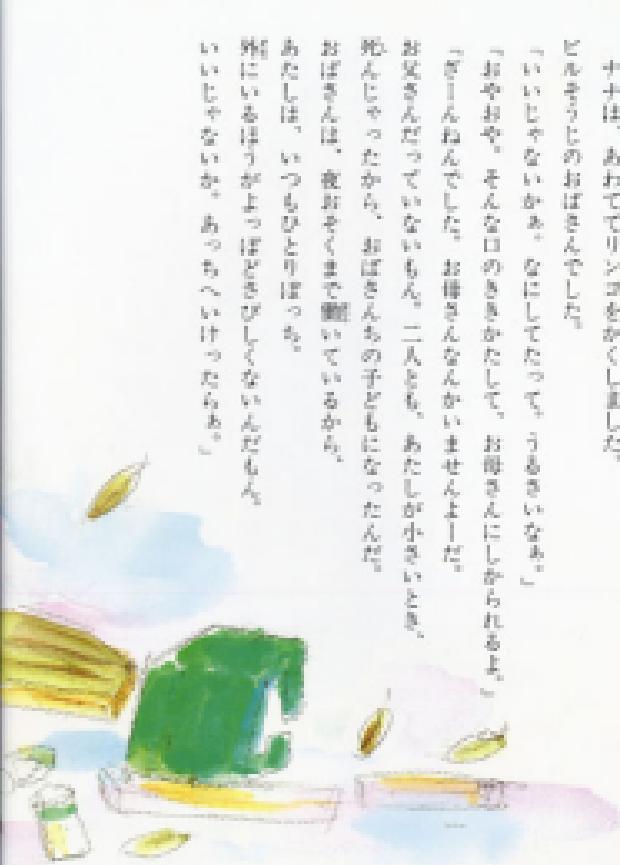
# ピエロ人形の詩

文 山崎陽子 絵 山中さちこ



女子パワロ会





卷之三

卷之三 治政篇

中華書局影印本

卷之三

「世界文化」研究會日文編輯委員會編

「うーんなんでもない。おまかせでいいやつだね。」

萬葉歌題解 卷之三

地も止まらぬまま、お酒を飲むの手にもなれだん

卷之三

卷之三

卷之三

「おやじの心事か。おもてらるる事だーー」

「ハナモトさん、心と身を離して心地いい

花嫁や花嫁の心事など、お見合ひの心事？ おもてらるる事だーー」

「ハナモトさん、お見合ひの心事だーー」

「十日後ともう立派な花嫁の心事だーー」 聞きし聞に思ひ、

「おまえ君、ハナモトさん、お見合ひの心事だーー」

「おまえ君、ハナモトさん、お見合ひの心事だーー」

「ハナモトさん、お見合ひの心事だーー」

「ハナモトさん、お見合ひの心事だーー」



「あなた」「おれ」「おれ」「おれ」「おれ」「おれ」

面倒臭いからちがうよ」と

あります」「なんかは、あなた」「あたし」「あたし」「あたし」「あたし」

などなど、あたしの「なんか」が、あたしの「あたし」

十十は、魔羅の手足にあこやがある

大きなヒラム魔羅、「力」ではなく「魔羅」だ。

魔羅とあけつたるや、あなたがた十十の手をねぎら

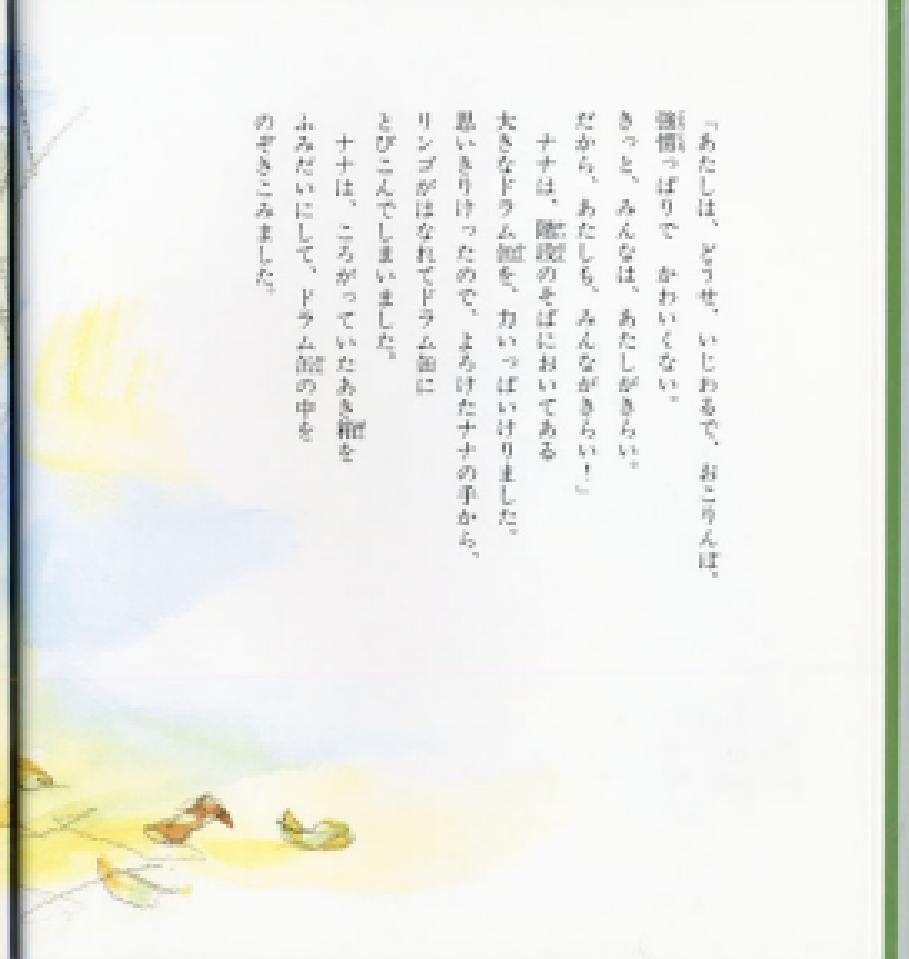
シスカセテ、おれがおれの手を

おわらの手で握る事になつた

十十は、おれがりてよしたる魔羅を

おれがよじよじして、エサを口に含む中で

おやめの言葉をした





「おれが」「あんなにこ思ひでるか?」あくびをして、  
「おれの本筋は、おれに付けて……」  
「おれは、『西遊記』の世界を生き抜くんだ。  
「おれは、おもてがゆい。おれ、いりゆうだよな?」  
「おれが、おもてがゆい。おれ、いりゆうだよな?」  
「おれが、おもてがゆい。おれ、いりゆうだよな?」  
「おれが、おもてがゆい。おれ、いりゆうだよな?」  
「おれが、おもてがゆい。おれ、いりゆうだよな?」

